

日本小児がん看護学会
「小児がん看護」査読ガイドライン

日本小児がん看護学会 編集委員会

1 査読の方針

- 1) 査読はできるだけ速やかに（30日以内）行ってください。
- 2) 原則として、第1回の査読で問題点をすべて指摘し、2回目以降は新たな問題点の指摘は行なわないようしてください。
- 3) 体裁は整っていないが、その内容は本誌に掲載する価値があると思われる場合は、できる限り教育的・建設的な査読を行ってください。
- 4) 他誌に掲載されたものと同じ内容の論文（多重投稿）や同時に他誌に掲載すること（重複投稿）は禁止されています。疑わしい場合は、その掲載雑誌名なども含めて編集委員に連絡してください。
- 5) 論文の内容（データやアイデア、題名も含む）については、論文掲載されるまで他言しないでください。また、査読したことや査読結果も同様です。
- 6) 査読者と著者との間に利益相反（COI）が存在する場合は、査読をご辞退いただきますようお願ひいたします。以下のようないくつかの関係性がある場合には、編集委員会まで速やかにご連絡ください。
 - ・著者が直接の共同研究者である場合
 - ・著者が所属機関の上司・部下である場合
 - ・著者と緊密な師弟関係または親族関係にある場合
 - ・その他、公正な査読が困難と判断される関係性がある場合

2 査読の基準

投稿論文の評価は原則的に以下の要点で、学術的意義、独創性・新規性、形式適切性に基づいて行う。但し、実践報告、資料などに関する原稿については、それぞれのカテゴリーの趣旨に応じて形式的適切性に関して柔軟に評価し、問題のある点については、査読結果報告書中で指摘して下さい。

- 1) 小児がん看護としての意義があるか（学術的・教育的・社会的課題に対応、実用化・改善上の成果、波及効果・啓発効果等）
- 2) 独創的な内容または新しい知見はあるか（問題設定・適用領域、発見・知見・事例に独創性や新規性、論理・方法論に独創性あり）
- 3) 題名は論文の内容を的確に表しているか
- 4) 論文の種類は適切か
- 5) 文字数は適切か
- 6) 研究目的は適切か
 - ・論文の目的が明確か
 - ・目的を達成するための方法が適切であり、明確に記されているか
- 7) 研究方法は適切か
- 8) 倫理的配慮がなされ、それに関して記載はあるか
- 9) 考察は適切か
 - ・得られた結果からの確な考察が展開されているか、論理に飛躍がなく論理的な記述がされているか
- 10) 論旨は論理の矛盾や飛躍はないか
 - ・一貫性があるか（使用する概念、定義、論旨、記述の統一）

1 1) 論文の構成は論理的で分かりやすいか

- ・各セクション（緒言、方法、結果、考察など）が適切に配置されているか
- ・論文全体の流れに一貫性があるか

1 2) 文章の表現方法は適切か

1 3) 文献活用は適切か

1 4) 文献記載の様式は適切か

1 5) 抄録は適切か（原著は和文・英文が必要、研究報告は和文が必要）

1 6) Key Words は適切か

1 7) 図、表、写真は適切か

3 査読結果の判定区分

1) 掲載可：現状のまま掲載に値する論文

2) 要修正再査読不要（条件付き採択）：軽微な修正が必要だが、修正内容の確認は編集委員会に委ねることができる

3) 修正後要再査読：論文の完成度を高めるため、内容（および構成）に関わる重要な修正が求められ、修正原稿について再度査読を行うもの

4) 一旦取り下げて洗練することを提案：研究内容自体には価値があるが、現状では掲載基準に達していないため、大幅な改訂が必要

5) 掲載不可：本誌への掲載に適さない論文（学術的意義の欠如、重大な方法論的問題、倫理的問題など）

4 著者へのフィードバック方法

査読コメントは以下の点に留意して記載してください。

1) 具体的かつ建設的なコメントを心がける

- ・問題点を指摘するだけでなく、改善のための具体的な提案を含める
- ・該当箇所（ページ、行、図表番号など）を明示する

2) コメントの構成

- ・総合的評価：論文の長所と短所を簡潔にまとめる
- ・主要な問題点：必須の修正事項を優先順位をつけて記載する
- ・副次的な問題点：望ましい修正事項や提案を記載する

3) 表現に配慮する

- ・敬意を持った表現を用いる
- ・感情的または攻撃的な表現は避ける
- ・著者の努力を認める姿勢を示す

4) 明確性を重視する

- ・曖昧な表現を避け、何をどのように修正すべきか明確に示す
- ・必要に応じて参考文献や具体例を示す

付則

本ガイドライン（改訂版）は、2026年2月2日から施行する。